活動報告　６月「田植え、季節野菜の収穫、クワの実、茶摘みと茶もみ」

活動日時：平成 30 年 6 月 10 日(日) 曇り　　午前 10 時～14 時 10 分
参加人数：参加者 14 人
活動場所：堺自然ふれあいの森

自然に触れる事が少なくなった子どもたちに、年間を通して農の歳時記に従った農作業と森の学習を体験させる。作業の大変さ・楽しさ・収穫の喜び・森の多様性・自然の大切さを学習する中で、子どもたちの成長を手助けする。自然の中で遊び、友達を作り、みんなと挨拶ができ、自分の意見を言うことができる、自分のことは自分でできるような子ども像を目指しています。

今月の活動内容；　農作業　＝お米の話、田植え、タマネギの収穫と保管
　　森の学習＝お茶の話、茶摘みと茶揉み、試飲
　　その他＝クワの実をもいで試食
参加スタッフ　；　15 名
スケジュール　；

9:45-10:00	受付
10:00-10:20	スケジュール説明
10:20-11:00	畑ツアー、タマネギの収穫、吊るして保管
11:00-12:00	米作りの話、水稲苗の植え方説明、田植え
12:00-13:00	昼食と自由時間 タマネギとエンドウのスープ クワの実をもいで試食
13:00-14:30	お茶の話、茶摘み、茶もみ 新茶の試飲、作った新茶をお土産に持ち帰り
14:30-14:40	終礼、来月の案内、注意事項説明

・農作業・米作りのメイン作業ともいえる田植えを体験しました。3-4 本の苗を１つにまとめた苗取り株を、ひと株ずつ植えていきました。横一列に並び、端から端まで張った紐のしるしに沿って、30cm 間隔に一人 3 ケ所を受け持って植えると１列目が完了します。次に全員１歩後ろに下がり、元の足跡をならします。紐を移動させた新しい目印の位置（足跡をならした場所付近）に、今度も一人当たり 3 ケ所植えます（3 条植え)。２列目です。移動する際に泥に足をとられてうまく抜けなかったりして、尻もちをつく子どもが例年いますが、今年はそんな失敗もなく、少し衣服が汚れましたが徐々に慣れてきて 23 列を無事、植え終わりました。自分の植えた株は各々まっすぐ縦一直線に 3 条が並んでいるかな？田圃が長方形でなく変形しているので、年長の子どもには倍くらい植えてもらいましたが、飽きずに最後まで植え終わりました。

・タマネギの収穫は、思った以上に玉が大きく豊作でした。たくさんとれたので、茎の部分を少し残して紐でくくり、３株ずつ振り分けにして、吊して保管することにしました。括り方を教えてもらって、上手にくくり、てんでに棒に掛けて干しました。昔は、泉州から浜寺にかけてタマネギ畑が多く、あち

こちで畑の片隅のタマネギ小屋の中に収穫したタマネギを吊るして保管していました。

・昼食には、収穫したタマネギとエンドウのスープを試飲、昼休みには、クワの実を試食しました。クワの葉はお蚕さんが食べ、蚕の繭から生糸（より合わせると絹糸）をとるのですが、その実は小さな粒粒の集合体で、薄黄色から赤を経て真っ黒になると熟して食べごろとなります。ふれあいの森には数本のクワの木があります。クワの実は　作詞三木露風作曲山田耕筰 童謡「赤とんぼ」2 番「山の畑の桑の実を　小かごに摘んだは　まぼろしか」に歌われるように、養蚕業が日本の主要産業のひとつだった時期がありました。今日は、子どもたちが熟した実を選んで、口の周りを赤黒く染めて食べていました。

・ふれあいの森は、昔の里地里山であり段々畑の痕跡があちこちに見られます。農家の方々が身近なところで自家用に植えたであろうチャノキもたくさん生えています。いっちんのボランティア活動では森の館の入口の近くに茶畑を整備しています。葉は少し小ぶりですが、この茶畑で茶摘みをし、ホットプレートで蒸しながら茶揉みをしました。八十八夜から 1 ケ月遅れでしたが、子どもたちの粘り強い作業の結果、おいしい新茶がとれました。さっそくお茶をいれて皆で 1 杯ずつ試飲しました。せっかくでしたので、みんなで分けて、2、3 つかみ程度ですが小さな袋に入れてお土産に持ち帰りました。

米作りの話

田植え

タマネギの収穫と保管

クワの実試食

茶摘み茶もみ

以上